12月定期調査（その 5） 06 年 12 月 17 日(日)

今日は最高の調査日和になりました。天気予報は曇りのち雨だったんですが、雨のち曇りのち快晴です。水温は 11℃、水は完全に澄みきっていました。少し手がしびれてきますね。しかし寒さはこれからです。さあ、今年はどれだけドブガイが繁殖しているか、見てください。

12 月定期調査（その2） 06 年 12 月 17 日(日)

今年生まれと昨年生まれのドブガイです。今年生まれのドブガイは 96 個対中 3 個体にマークが付いていました。10 月 10 日に 100 個体をマークしたので、単純に推定する今年生まれのドブガイは、約 3000 個体になってしまいます。本当かな。しかし、今年生まれのドブガイの死貝が 35 個体あったので、約 25%が死亡している割合になります。大まかに今年生まれのドブガイを推定すると、約 2000 個体は生きている計算になります。これでも昨年の約 2 倍になりますね。本当でしょうか。これからどんどんマークを付けていきます。さあどうなるでしょうか。

12 月定期調査（その 1） 06 年 12 月 17 日(日)

今朝から雨がシトシト霧のように降っていました。今年は雨の調査が続きます。豚汁も準備できず、午前中で調査を終えようと思っていたのですが、水質を調べているうちに雲間から日がさし始めました。大島さんが豚汁に合わせて、お餅を沢山差し入れしてくださったんです。ごめんなさい、豚汁の準備できなかったんです。池の水面に青空はどんどん広がりだし、あー豚汁を準備したらよかったと思っていると、越道さんが待っててねと家まで戻られたんです。さあー12 時です。見てください、豚汁と握りたてのおにぎりなんです。やったね。冷たいドブガイ調査もいっぺんに豚汁パーティーに変身です。ありがとう！最高でした。

第 2 回全国タナゴサミット in 八尾のポスター　12 月 07 日(木)

第 2 回全国タナゴサミット in 八尾のポスター・ビラが出来上がりました。

ポスター・ビラを希望される方は、メールで事務局まで連絡してください。

日時：2007 年 1 月 13 日(土)午後 1 時から

場所：大阪府八尾市文化会館(プリズムホール)

高安山自然再生活動 06 年 11 月 26 日(日)

11 月森林整備 06 年 11 月 26 日(日)

11 月定期調査その 3　06 年 11 月 19 日(日)

11 月定期調査その 2　06 年 11 月 19 日(日)

八尾市の小中学校16校が、ニッポンバラタナゴの里親になってくれました。今年生まれの稚魚を 1000 尾採集し、高安中学校へ移植し、各学校の水槽へ移植です。水槽は八尾市のライオンズクラブから寄贈していただきました。皆さんご協力ありがとうございます。

11 月定期調査その 1　06 年 11 月 19 日(日)

ふれあい池のドビ流し 06 年 11 月 05日(日)

ふれあい池の地引き網 06 年 11 月 05 日(日)

ふれあい池の底樋 06 年 11 月 05 日(日)

ふれあい池のブラックバス 06 年 11 月 05 日(日)

ふれあい池のドブガイとイシガイ 06 年 11 月 05 日(日)

高安山自然再生活動　06 年 10 月 22 日(日)

郡川上流部の森林整備を開始しました。40 年～50 年前に植林したヒノキ林の森林整備です。まずは倒木や枯れ木の整備からです。小鳥が囀る中、木を切るたびにヒノキの香りがし、すがすがしい風が木立の間を通り抜けるようです。しかし、まだまだヒノキが詰まっているので、光があまり入らない状態です。
徐々に間伐を繰り返していく予定です。
皆さん、気持ちいいですよ。一度参加してみてください。
毎月、第 4 日曜日に実施する予定です。
第 3 日曜日は、ニッポンバラタナゴの保護池調査です。
楽しみが、増えましたね。

森林整備その１ 06 年 10 月 22 日(日)

新保護池周辺自然再生活動　06 年 10 月 22 日(日)

郡川下流に位置する新しい保護池周辺の自然再生活動です。
今年の 5 月に放流したカワニナがうまく繁殖しているようです。来年の春にはゲンジボタルが再生する予定です。
保護池のほうは、ドブガイの移植をする前に、ザリガニつりをしなくてはなりません。ザリガニがドブガイを食べてしまうんです。ドブガイが増えるようになったら、ニッポンバラタナゴは自然に増殖するんですよ。

保護池の水質調査（10 月定期調査） 06 年 10 月 15 日(日)

ドブガイの個体推定　06 年 10 月 15 日(日)

10 月定期調査 06 年 10 月 15 日(日)

中高安小学校総合学習　06 年 10 月 10 日(火)

中高安小学校総合学習溜池調査　06 年 10 月 10 日(火)

中高安小学校の 5 年の総合学習において、溜池調査を行いました。今回は、保護池全体から今年生まれのドブガイを採集し、殻長分布を作成しました。

郡川再生区小河川　06 年 09 月 26 日(火)

郡川の自然再生区にある砂防ダムから保護池までの約 100mの小水路です。2 年前まではゲンジボタルが出ていました。この春にカワニナが生息しているか、調べたのですが、小さな個体を 1 つだけ見つけただけだったんです。そこで約 200 個体のカワニナを高安地区の神立から採集して移植しました。さあ、カワニナは繁殖しているでしょうかね。次の春に高安地区のゲンジボタルを移植する予定です。

郡川再生区で繁殖したカワニナ　06 年 09 月 26 日(火)

この春に、砂防ダムのすぐ下流にカワニナを約 200 個体移植しました。その成貝の姿は見つからなかったのですが、移植したところと同じところにカワニナの稚貝が繁殖してましたよ。この大きさは生まれてそんなに日が経っていないと思います。ということは親貝はどこにいるのでしょうかね？みんなで探さなくては。必ずいるはずです。そして、その場所から下流へ 30mほど言ったところに、お兄ちゃんカワニナが砂場で遊んでいました。さあどれほどのカワニナが繁殖したか、みんなで調査ですね。あ、サワガニが 2 匹遊んでいますよ。やっぱり相当キレイな水ですね。

郡川A池のザリガニに捕食されたドブガイ　06 年 09 月 26 日(火)

郡川A池にはザリガニが沢山生息しています。池の状態を調べ地ために、この春にドブガイを26個体移植しました。しかし、見事にザリガニの餌になってしまいました。まずはA池のザリガニ釣りから開始しなければなりませんね。郡川A池の給水口付近に移植したカワニナが 2 個体生息していました。ヘドロの酸化還元電位は－125mVでした。ヘドロの掻き出しと池干しをしたいのですが、それまでに準備することが沢山あるみたいですね。

再調査　酸化還元電位測定　06 年 09 月 24 日(日)

8 月 27 日の定期調査で行った、酸化還元電位調査の再調査です。本当に、給水してから、9ヶ月も経っているのに酸化泥の場所が残っているのでしょうかね。もうすべて池底が還元しているとばっかり思っていました。やはり池の北東部は酸化電位ですね。何でなんでしょうかね。不思議です。湧水でもわいているのでしょうか。太陽光が一番長くあたっている場所だからでしょうかね。もし酸化泥でケイソウがよく発生するのでしたらそのわけは何でしょう。分からないですよ。

ドブガイと酸化泥　06 年 09 月 24 日(日)

保護池の北東角の部分は酸化還元電位が正の値を示しているので、その部分を注意深くドブガイを探してみました。するとドブガイがかたまって砂泥の中に潜っていたではありませんか。30cm×30cm四方の中に 33 個体いました。これはドブガイの住処ですね。そのドブガイたちは他の場所と比較するとよく成長してるんです。殻長の平均が 41mmです。他の場所のドブガイは平均 32 mmぐらいなんです。この場所はドブガイにとって大変いごごちが居場所なんでしょうね。たぶん餌が豊富に発生してるんでしょうね。さて餌とは何でしょうか。お楽しみお楽しみです。

9 月定期調査　06 年 09 月 17 日(日)

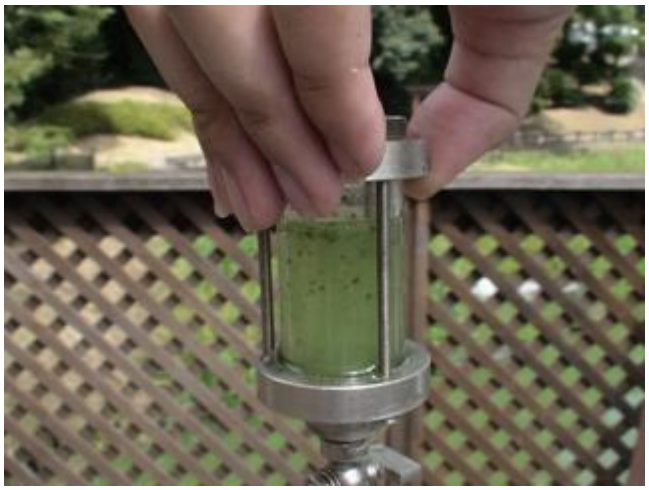
魚のサイズを測定したり、ドブガイの大きさを測ったりしていると、小さいニッポンバラタナゴは弱って死んでしまったり、ドブガイも測定の影響を受けた模様が残ります。科学は客観的なデータを必要とするのですが、そのデータを取ると、その影響が対象の生物に現れてしまいます。これは科学することの元々の矛盾なんですね。本来科学する場合、できるだけ観測者の影響を与えないようにして、客観的にデータを取らなければなりません。誰が測定してもドブガイのサイズは一定のはずです。しかし、その測定がドブガイの成長に影響を与えることは研究者は知っています。もう少し広い目で見ても生態学における野外調査は、人の影響がものすごく出ていることもよく知っています。天然の自然なんて南極にいっても、もはや無いと思います。南極の海で採った魚にもPCB 汚染が現れていることもわかって研究しているのです。いまや物理の世界でも、生物の世界と同様に、観測者の問題を抜きにして考えることはできない時代です。そんなことは判っていても、やはり科学は重要なんです。そこのところを抜きにしてしまうと保全活動は意味がなくなることをよく知ってください。

9 月定期調査　06 年 09 月 17 日(日)

ネットを一掻きすると、たくさんの雑魚が採れます。昔の溜池はこんな状況だったんだろうと思います。今年生まれのニッポンバラタナゴやモツゴ・ヨシノボリがほんとうにたくさん繁殖しているようです。昨年の”池干し”では、池を干す代わりに、池の縁へ天日干しした土を撒いて、その効果を調べたので、本来の”池干し”とは少し違っていたのですが、今年は、完全な”池干し”を実施しました。さらに、今年の場合は、池の構造を改修工事して浅瀬と深み、すり鉢型側面と石積み、ガマや花菖蒲と石土の側面など池内の構造が多様になったため、昨年あまり増えなかった、メダカやヨシノボリやモツゴが大量に繁殖したみたいです。ヨシノボリやモツゴは石の裏面を利用して繁殖し、メダカはガマや花菖蒲が繁茂するところで、繁殖成長しているようです。ニッポンバラタナゴもドブガイの増加で、推定 20000 個体は産卵され、その 7 割の 14000 個体は稚魚になり、たぶんこの冬の”ドビ流し”では 10000 個体が採集されることになると思います。環境さえ整えてやれば、池の生物多様性は完全に復元されるのです。”生き物”は単なるの物質ではありません。物質ならば大切に保管していけば、かなり長く保存できるのですが、生き物は大切に保管することができません。なぜならば、どちらかというと、現象です。生きている現象を維持するためには、その環境を持続的に維持するしかないのです。保護池を見ていると、最近つくづくこのように感じるのです。

アオコがいっぱい　06 年 09 月 10 日(日)

ふれあい池でプランクトンネットを曳くと、藍藻類のアオコばかりが大量に集まってきます。このアオコはドブガイの成長や繁殖を抑え、バラタナゴの産卵数も激減させてしまいます。さらに、このふれあい池にはブラックバスが繁殖しています。ブラックバスはタナゴやヨシノボリ・スジエビなど小形の雑魚を捕食してしまいます。ブラックバスを完全に除去するためには”池干し”をおこなうしかありません。



ふれあい池のプランクトン調査　06 年 09 月 10 日(日)

経済法科大学のふれあい池です。11 月 3 日に文化祭があり、そのときふれあい池の”池干し”を行います。この池では以前からニッポンバラタナゴを保護していますと看板がかけてあるのですが、どうしてもニッポンバラタナゴが増えない池だったんです。昨年の秋に調査したところ、ブラックバスの稚魚が大量に繁殖していたのです。そこでこの秋に池干しをすることになったのです。前回、池を干してから 5 年は経つと思います。その間にかなりヘドロが溜まり、この 3 年間は毎年夏場になるとアオコが発生しています。今年もかなりのアオコが発生しているようです。溶存酸素量を調べると、水深 20cmぐらいのところでは 130%を示しています。深いところでも 80%はあり、かなり高い値を示しているのですが、表層の酸化還元電位はほぼ 0 に近い値でした。なぜこんな値がでるのかわかりませんが、DOと酸化還元電位は直接的な相関はないようです。

高安山保全プロジェクト　06 年 09 月 03 日(日)

高安山自然再生プロジェクト活動がはじまりました。ケーブルの高安山駅からすぐ横の展望台から大阪市内を望むと、はるか彼方に六甲山が、そして大阪湾が開き大阪の大都会が広がっています。手前のヒノキの人工林と雑木林の間が尾根になっています。今日の活動は展望台からその尾根までの進入路作りです。

高安山保全活動　06 年 09 月 03 日(日)

全国森林インストラクター会理事の斉藤さんから、今後の整備方法について説明がありました。まずはヒノキ人工林について、枯れかかった木の間伐を行います。陰生植物のアオキは少しだけ残して、林床に光が入るようにしながら、倒木の整理を行っていきます。雑木林の方はつる性の植物を除去し、下草に光が入るように整備していきます。月一回の環境整備ですが、土壌の流出を防ぐために、しっかりした下草が生えるように整備していきます。この活動を進めることによって、本当に下流の水質・水量が変化するかどうかをチェックする予定です。

今年生まれの稚魚の群れ　06 年 09 月 02 日(土)

この群れを見てください。

ニッポンバラタナゴの稚魚と今年生まれのドブガイ　06 年 09 月 02 日(土)

今年生まれのニッポンバラタナゴの稚魚(16mm)と今年生まれのドブガイ(32 mm)です。

残暑の保護池　06 年 09 月 02 日(土)

エコブックネットの西村さんと三好さんが保護池を視察しました。今年生まれのニッポンバラタナゴやモツゴ・ヨシノボリ・メダカの稚魚が、用水路から入ってくる冷たい水に向かって、気持ち良さそうに泳ぎまわっています。

エコブックネットでは、バラタナゴ坊やの冒険という絵本作りを行っているところです。主役のバラタナゴの坊やがどのように池の中を冒険しているか、最終チェックです。

8 月定期調査　06 年 08 月 27 日(日)

今日も晴天、真夏日和です。午前中は定期調査で、喉がからからになってしまいました。まさか、2 時からの集中豪雨が来るなんてまったく思いもしませんでした。まずは、モンドリでニッポンバラタナゴを採集し、ドブガイをできるだけたくさん採集する予定でした。

この 1 ヶ月ほとんど雨が降っていなかったので、池の水量が心配だったので、横を流れる用水路から水を給水していました。しかし、用水路にも水はほとんど流れていないので、午後 2 時まで 4 時間給水を続けたのですが、3cmぐらいしか水位をあげることができませんでした。午後 2 時ごろ急に雲行きがおかしくなり、はじめは久しぶりの雨だなと思っていると、雷が鳴り始め大粒の雨が降ってきたのです。ああ、これでやっと水が増えると思っているうちに、大雨に変わりどしゃ降りになり出したのです。雷がかなり近くに落ちだしたので、一時避難することになったなですが、池の給水口に設置したす板をとろうかどうか迷ったのですが、やはり増水が心配で外しに行ったのです。この時点では、まだ水はそれほど増水していませんでしたが、用水路に入り板を抜くと同時に大きな水の音がしだし、山の表層を流れてきた水で流速がどんどん速くなってきたんです。この間雨が降り始めてから 20 分から 30 分ぐらいだと思います。保護池の給水口の栓を閉め、急いで避難しました。雨がやんだ 20 分後、用水路には大きな流木が流れ土砂を含む濁流になっていました。横で見ていると少し恐ろしくなるぐらいの濁流です。こんな日もあるんですね。下流の恩智川でもかなり速度での増水しただろうと思います。三面張りコンクリートの用水路は怖いものですね。

ドブガイ拾い　06 年 08 月 27 日(日)

今年生まれのドブガイがどれほど繁殖しているか、推定するために、今日の調査はドブガイ拾いをメインに行いました。昨年生まれのドブガイを約 100 個体と、今年生まれのドブガイを 230 個体採集することができました。昨年生まれのドブガイは 800 個体放流してあるので、約 13%の回収率です。そこから推定すると、今年生まれのドブガイはだいたい2000個体になるのではないかと思います。まだまだ小さい個体が出てくるので、さらに増えて 3000 個体ぐらいかな。さあ、どれくらい増えるか楽しみですね。採集した場所によって、ドブガイの成長速度がぜんぜん違うようです。やはり、西側のガマが生えている付近の個体が最も成長がいいようです。天日に干して、酸化したヘドロの効果が出ているようです。

休憩　06 年 08 月 27 日(日)

約 350 個体のドブガイを採集して、一休みです。みんなのんびり昼食をとって、ドブガイの測定にかかりました。

まさか、集中豪雨になるなんて、誰もまったく思いましていませんでした。

生駒・高安山集中豪雨　06 年 08 月 27 日(日)

集中豪雨の後の用水路です。土砂や流木を巻き込んだ、すごい鉄砲水が、音とともにすぐ横の水路で暴れまわっています。今朝はほとんど水が無かった水路です。